

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2010年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 21世紀社会デザイン		研究科 比較組織ネットワーク 専攻 学
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	21世紀社会デザイン研究科 博士後期課程 1年	佐野 敦子 印	
指導教員	所属・職名	氏名	
	21世紀社会デザイン研究科 教授	長 有紀枝 印	
自然・人文・社会の別	自然 ・ 人文 ・ 社会	個人・共同の別	個人 ・ 共同 名
研究課題名	メクレンブルク＝フォアポメルン州の成人教育～国家・地域・教育との協業～		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	立教大学 21世紀社会デザイン研究科 比較ネットワーク学専攻後期課程1	佐野 敦子	
研究期間	2010	年度	
研究経費	20	千円	

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の目的は、主に社会学の観点から、ドイツにおける成人向け教育の運営を分析することで、21世紀では地域・国家の形成において教育が重要な役割を果たしていくのではないかと、という仮説を検討していくことである。

メクレンブルク＝フォアポメルン州は、州法によって、成人教育の主要な提供機関である民衆大学がコミュニティ教育の中心的な役割を担うことが定められていることから本研究の対象地域として着目している。今年度は、同州の継続教育の関係者、および、比較対象としてベルリン市や継続教育全般を扱う研究所の関係者へのインタビューを通し、幅広い視野から、ドイツの成人教育の運営や、現状の課題などについて明らかにし、今後の研究の方向性をだすことに焦点をあてた。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[成人教育] [ドイツ] [社会包摂]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

2008 年度 (修士論文) は、ドイツの成人教育を地域の課題解決と個人のエンパワメントを通じた社会的包摂の手段としてとらえ、その方針を分析することで、成人教育が社会背景にある格差と時代・地域ごとにいかに呼応・変遷し、展開しているかを分析した。

今年度、本助成を受けて行ったのは、修士論文で得た仮説をもとにした成人教育の研究機関、および現地の民衆大学 (Volkshochschule) でのインタビューの実施である。現在ドイツで成人教育がどのように展開されているのかについて考察を深め、今後の研究へとつながる機会とした。

今回は、ドイツ成人教育研究所 (以下、DIE-bonn と称する)、旧東ドイツ地域のメクレンブルク＝フォアポメルン州・シュヴェリーン市の民衆大学 (Volkshochschule、下 VHS と略す)、およびその比較対象として、ベルリン市の民衆大学を訪問した。

1. ドイツ成人教育研究所 (Deutsches Institut für Erwachsenenbildung)

旧西ドイツの首都ボンに位置する DIE-bonn は、成人教育のうちでも主に継続教育に関する調査研究・実践を行う中心的機関であり、ボンの連邦教育・研究省の一角にある。

ドイツの成人教育は職業継続教育と一般継続教育、そして NPO などが主催する自主学習グループなどがあげられる。ユネスコの分類と対比すると、順にフォーマル教育、インフォーマル教育、ノンフォーマル教育にあてはまる。

ドイツの教育方針は基本的に州政府によって決定される。しかしながら、継続教育については大きく 2 つ分けて考えられ、職業継続教育はドイツ連邦政府の管轄で、一般継続教育は州政府の管轄となる。

この施設の図書館には多くの資料も存在し、今後の研究にも大いに役に立つ文献をいくつか入手することができた。

2. VHS の成人教育

VHS は、ドイツ全土にある成人教育の重要な提供拠点である。日本に該当する施設はない。自治体を中心となって、夜間高校のような学位取得に向けた教育から、外国人の語学講座、ヨガに至るまで幅広い範囲の教育を提供している施設である。なお、上記、成人教育研究所でも指摘を受けたが、成人教育についての全体を見渡すような統計は存在しないが、VHS に関していえば統計資料は充実している。

今回は VHS のうちで下記 2 か所を訪問することができた。1 か所は、旧東ドイツ地域で本研究のテーマであるメクレンブルク・フォアポメルン州の州都であり、同州のコミュニティ教育の中心的な役割を担うシュヴェリーン市の VHS、そしてドイツの首都ベルリン市の VHS である。この 2 校を選出した理由については旅程によるところが大きい。

(1) メクレンブルク・フォアポメルン州 —シュヴェリーン市—

メクレンブルク・フォアポメルン州は旧東ドイツの州で、ベルリンから電車で 2 時間ほどの位置にある。同州はドイツの中で一番人口密度が低い。州都シュヴェリーン市の VHS は、州法によって、コミュニティ教育の中心的な役割を担うことが定められており、同州の成人教育の重要な拠点であるといえる。

特に同校が力をいれているのは、シニア教育であり、参加者の最高年齢は 95 歳とのことである。年 2 学期ごとに講座案内を各家のポストに投函し、受講生を募っている。

だが、VHS がリーチできていない老年層はまだいる。VHS はその層にどのように関わっていくのかも課題であると認識している。しかし、それは VHS 単独では解決できず、ソーシャルワーカーなど他の組織との協力で実現可能であろうとの見解をあわせもっている。

VHS が位置している建物には、音楽学校やカルチャーフォーラムも入っており、組織を横断しての共同のイベントも開催される。課題を他組織との連携で解決しようという姿勢からも、複数の組織との協業を前提に考えている印象をもった。

研究成果の概要 つづき

(2) ベルリン市

ベルリン市は統一後 12 の地区となり、それぞれにひとつずつ 12 の VHS が存在する。VHS はネットで各校の提供講座などの相互検索ができ、運営側でも教育方法や他校の人気講座などの情報交換が盛んにおこなわれている。

ベルリン市の VHS の特徴としてあげられるのは、20 万人の受講生のうち、半数の約 10 万人が語学コースの受講者であることである。語学コースの受講レベルは欧州評議会の語学力評価基準に基づいており、公的な機関で主催されるテストと語学コースの修了レベルが密接に関連付けられている。

受講者はドイツ語を学ぶ外国人だけではない。外国人パートナーの言語を身につけたいとロシア語などを受講するケースなどドイツ人の参加者も多い。また、語学講座以外の文化を紹介する講座も人気が高い。

加えて、連邦政府の移民・難民局が推進している統合コースや、市民権テストの準備コースも提供しており、外国人の社会統合に積極的に関与している。

< 今回の調査のまとめと今後の研究 >

今回の研究を進める中で、ドイツにおいて成人教育は、コミュニティ形成や市民意識形成において社会統合手段としての役割と期待が非常に大きくなっていることがわかった。しかし、当初予想していた東西両ドイツの統一による影響は、20 年以上たっているいまではみられず、外国人の社会統合、少子高齢化による老人の孤立化の対応策など日本にも共通し、検討しなければいけない別の課題のほうがより深刻にみられた。

そこで本研究の今後の方向性としては、移民の社会統合を含めた視野からあらためて成人教育の社会統合機能と役割について問いただしたいと考える。移民への対応は地域だけでなく、連邦政府の機関である移民・難民局も関わるものであり、両者が関わるドイツ語コースなどの成人教育は、今回のテーマである「国家・地域・教育との協業」に大きく通じるものである。

また、今回の調査で訪問したボンへ 2011 年 9 月より派遣留学が決定している。この機会を利用し、今回の調査の成果もふまえ、成人教育の社会統合機能についてさらに追及していき、21 世紀における教育の役割について考察を深めていきたいと考える。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

◆ 「A Study of Adult Education in Germany: Its Role as the Policy of Social Inclusion and its Future Mission」『21世紀社会デザイン研究 第9号』

*修士論文要旨に本研究による考察を追記し、英語翻訳して執筆

◆ Risk and East Asia September Seminar Tokyo 2010

(ドイツ・デュイスブルク大学、イギリス・シェフィールド大学、東京大学との合同シンポジウム上での発表)

「Adult Education in Germany: Its Role in Social Inclusion Policy and Mission in the Future」

◆ 21世紀社会デザイン研究学会 第5回年次学会

自由論題発表

「ドイツの成人教育—メクレンブルク＝フォアポメルン州の民衆大学を中心に—」